ORACLE

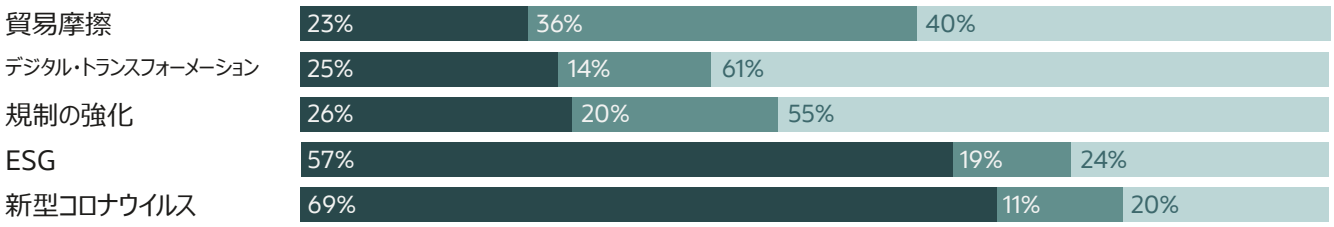
イノベーション・ガイド

ESG（環境・社会・ガバナンス）における計画と報告

はじめに

ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する課題は、近年も企業の優先的な対応事項として列挙されていました。しかし新型コロナウイルスの蔓延により、ESGの重要性は、さらに高まりつつあります。GlobalData社が最近行った調査では、調査対象となった1,500人の経営者の67%が、ESG課題への取組みを強化するきっかけとなったのは新型コロナウイルスだったと回答しています。また経営者の半数以上（57%）が、今後12カ月間において、ESGが自社のビジネスに与える影響は大きいと回答しています。

今後12カ月において、自社のビジネスに最も影響を与えるテーマは何ですか？



評価 （**1-2 =** 影響度 大　**3 =** 影響度 中　**4-5 =** 影響度 小） **N =** 1,500

出典: GlobalData社

消費者、株主、投資家、規制当局など、各方面において、企業のESGに関する課題対応への圧力が高まっています。一般市民にとって、地球規模の気候変動は非常に重要な課題となっており、企業には環境パフォーマンス（環境業績）に対する責任が求められています。また投資家は化石燃料や再生不可能なエネルギー源を敬遠しており、より環境に配慮した投資機会を求めています。そして従業員は、持続可能性、社会的責任とダイバーシティとインクルージョン（D&I）に関心を持ち、こうした価値観を共有できるような企業で働くことを求めています。つまり、企業の評判は、ESGへの対応ができるかどうかにかかっていることが多いのです。

ESGに関する課題を軽視することのリスク

企業がESGを軽視することには、リスクが伴います。潜在的なリスクとして、以下が挙げられます。

- **資本コストの増加**: 計画や報告が不十分なことから、借入費用が高額になる可能性があるため
- **企業に対する評価の低下** :ESGの成果が不十分であることから、経営に問題がある兆候として認識される可能性があるため
- **投資家の企業離れ**: 投資ファンドがESGに沿ったファンドや企業戦略にますます注目していくため
- **価格設定への影響**: 資本金の増加や保険料の上昇に伴うコストが買い手に転嫁されるため
- **企業に対する購入者の信頼性の失墜**: 影響力を増しているZ世代市場における購入者が顕著になっているため
- **人材不足**: 優秀な従業員は、自分の価値観に合った企業を求めるため
- **コンプライアンス違反**: 政府と管轄が新たな規制の導入や、既存の規制の変更を行うため

企業の経営層でさえ、ESGの課題について株主からのクレームを軽視すると、報酬のペナルティ、または解雇されるといったリスクに直面しています。

ESGに対処しないリスクは相当なものである一方で、正しく対処することで得られる対価も大きいものになります。McKinsey & Companyの最近の調査では、回答者の22%が過去5年間にサステナビリティの取組みによって価値創出が実現したと回答しています。今後5年間においては、その約2倍の40%が価値創出するだろうと回答しています。

このような価値を求め、またESGが自社にとって重要であることを示すには、目標を設定し、それに対する進捗を測定する必要があります。このため、世界中の組織において、、ESGに関する計画と報告は、ますます重要なものになっています。

ESGの計画と報告のためのベストプラクティス

ESGの取組みの報告は、決して簡単なことではありません。データは、男女間の賃金格差からサプライチェーンの二酸化炭素排出量まで、あらゆるものを網羅する可能性があります。組織のさまざまな部門において、ESGのデータを生成することになります。以下に示すように、サプライチェーン、人事、IT、ERP、その他の業務システムは主要なデータを提供しますが、その粒度や基準はさまざまです。(図1)

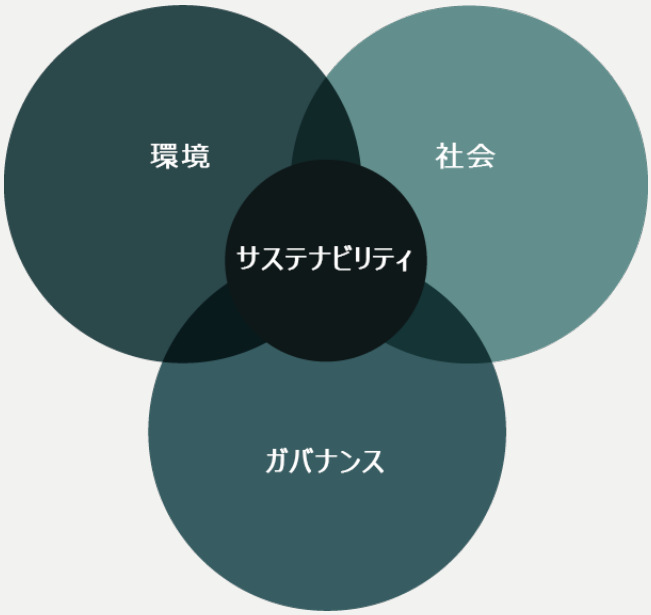


図1: ESGの報告には、右記のリストを含む（が、これらに限定されない）複数の領域を横断

環境
- 二酸化炭素排出量（カーボン・エミッション）
- 水資源を多く必要とする事業
- 設備で使用されるエネルギー
- 製品のサステナビリティ
- 収益感度
- 有害廃棄物

社会
- 従業員の健康に対する取組み
- デジタル技術に関するスキルアップ
- 男女の賃金格差の中央値（時給換算）
- 従業員の定着率
- 性別や人種／民族の表現
- サプライヤーの労働リスク

ガバナンス
- 女性およびマイノリティの取締役の数
- 気候問題を監督する取締役会
- 役員報酬

効果的な計画や正確な報告を行うためには、データの収集、変換、標準化、集計を行い、ESGのプログラムの全体像を一貫して把握する必要があります。ESGの計画と報告のベストプラクティスは以下の通りです。

- 戦略的、協調的、予測的、構造化な**計画**の**策定**によるESG目標の達成・改善
- 組織全体から、指標と**データの収集**
- KPIを正確に比較できるように、**一貫性のあるフレームワークへのデータの変換**
- 組織全体での**KPIの統合と集計**
- 成果の**分析**により、ESGの指標およびビジネスへの影響に関するインサイトの獲得
- 経営層に対する社内向け、ないしステークホルダーへの社外向けの**報告**
- **複数のレポート・フレームワークへの対応**例: EUではGRI（Global Reporting Initiative）が普及しつつあるが、他の地域でも他のフレームワークが開発されている

ESGの報告が非常に難しい理由

ESGに関するデータ収集と、そのデータから報告書を作成するベストプラクティスのリストを見るだけで、ビジネス・リーダーは圧倒されることでしょう。どんな報告書も大変なものですが、特にESGにおいては、以下の理由によって難易度がより高くなるのです。

進化していること

現在、ESGの報告は必須のものではありません。しかし、そう遠くない将来、義務付けられることでしょう。

複雑であること

常に変化する、膨大な量の情報を取り扱います。

コストがかかること

ESGの監査は大量のデータを含み、監査費用の増大につながります。また、報告書の作成自体にも費用がかかります。

未来を見据えていること

ESGの大きな特徴は、未来を見据えるという点です。2030年、2050年のゼロ・カーボン・コミットメントを、自社においてどのように達成するのでしょうか。また、どのように計画、監視、管理すればよいのでしょうか。

広範囲に及ぶこと

ESGに関するデータは、組織内外の複数の領域を対象としています。

ESGの報告を適切に行うためには、以下のような質問をすることも重要です。

- データの整合性をどのように確保するか
- 最新の基準に準拠していることをどのように確認するか
- 未来のコミットメントを果たすために、サステナビリティの課題をどのように計画、追跡、伝達するか

オラクルが支援できること

オラクルは、Oracle Cloud Enterprise Performance Management (EPM)内にESGレポート用のソリューションを実装しています。これにより、分析とインサイトを得る上で必要となる堅牢なプラットフォームが提供され、マネージャがESGの実践と計画を真に理解し、その成果のレビューや、分析ができるようになります。Oracle Cloud EPMは、ダッシュボードやチャート、スプレッドシート、およびナラティブをひとつのソリューションに統合しているため、KPIを表示するだけでなく、注釈をつけることで関係者が目標やその阻害要因、および進捗状況を理解できるような、包括的なレポートを作成することが可能です。

しかし、ESGは報告だけを目的とするものではありません。Oracle Cloud EPMの広範なプランニング機能により、従業員の報酬や多様性から、再生可能エネルギーの投資および二酸化炭素排出量の削減に至るまで、会社全体の持続可能な未来に向けた計画を、各計画の財務上の影響と併せて検討することができます。また、シナリオを並べて比較し、最適なアクションを決定することもできます。そして有意義な目標やKPIを設定して、これらの計画を組織全体に展開できるため、各部門が各自のESG目標の達成に向けて努力できるようになります。

Oracle Cloud EPMが支援できること

- 組織全体のサステナビリティに関する計画の策定
- GRI、SASBなどの複数のESGの報告要件への対応
- ESGのすべての関係者のレポートの管理
- 組織全体でのコラボレーション
- ERP、人事、サプライチェーン、その他の業務システムなど、あらゆるソースからのデータの整合性を保ち、自動的な統合の実現
- 事前に組み込まれたセキュアなプロセス・フローと承認による、説明責任（アカウンタビリティ）の明確化

Oracle Cloud EPMは、
ESGレポートのニーズを満たす上で必要な、すべての機能を備えています。

包括的であること

ESGの指標を報告するのみに留まらず、データの収集、翻訳と検証、監査と承認などのプロセス全体、方針、計画、成果、主要なリスク、主要業績評価指標（KPI）に関するナラティブを提供します。

つながっていること

ERPと業務システムをシームレスに接続し、サステナビリティの報告に必要となる、他のデータソースを取り込むことができます。

インテリジェントであること

内蔵された機械学習と高度な分析機能により、異常や問題を特定し、ESGの成果を向上させることができます。

実績と信頼があること

Oracle Cloud EPMは、何千ものお客様がクラウド上でレポーティング・プロセスを実行しています。また、アナリスト・レポートにおいても常に上位にランクされており、業界のリーダーとして認められています。

スタートしてみましょう

世界中の企業が、ESGへの取組みを実証し、ステークホルダーからの信頼をより確固たるものにしたいと考えています。オラクルは、ESGの実践における計画、管理、報告に必要な包括的なソリューションを提供しています。オラクルが提供しているESGの報告向けの製品やサービスの詳細については、当社のサイトにアクセスいただくか、当社にお問い合わせください。

サイトにアクセスする

Copyright © 2022, Oracle and/or its affiliates.本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なしに変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。